

※このシートをそのままPDF化しますので、表のサイズ、フォントを変更しないでください。

技術情報PDFシート

技術情報欄 (Outline of Technology/Service)

技術/サービス名称 Name of Technology/Service	低動力・短工期・見える化機能による低LCC鋼板製消化タンク	情報入力欄 Information Entry field	下のスペースに技術/サービスの説明、画像等を入れる。 Enter the information and images of this technology/service in the box below.
対象分類 Objects	E_汚泥処理		
対象小分類 Objects (Sub-categories)	1_有機性汚泥	株式会社 神鋼環境ソリューション 鋼板製消化タンク	
活動分類 Activities	05_設備・機械	本技術の適用範囲 適用基準：JIS B 8501鋼製石油貯蔵の構造（全溶接性）を適用	
技術特性・効果 Priorities	03_省エネ	1. 規模：最大9,000m ³ /基 2. 設置場所の条件：原則 制約なし（気温条件、地盤条件、塩害等の周囲環境条件に応じて設計可能） 3. 対象：下水汚泥（初沈・余剰）、し尿、集排汚泥、バイオマス（金属等異物を含まないこと） 4. 使用条件：中温域での消化を対象とする 5. 攪拌機：インペラ式攪拌機を併用する（槽の形状によらず、原則制約はなし） 6. 荷重条件：原則 制約なし 7. 耐用年数：20年（槽本体）、ただし、定期的な補修を行うことで35年以上の運用も可能	
技術特性・効果 Priorities	02_コスト削減		
技術特性・効果 Priorities	06_廃棄物減量化		
技術概要 Outline	1. 各種センサを用いて内部の運転状況を「見える化」することで、トラブルの未然防止や原因究明に活用でき、消化設備の運転を支援できる。 2. 土木工事と並行して消化タンク本体鋼板の工場プレハブ製作が可能である。コンクリート製と比較して地中部の土木工事が少なく、槽壁の養生期間が不要となり、建設工期が短縮できる。 3. インペラ式攪拌機を採用することで低動力化できる。 4. 鋼板製消化タンクの耐用年数は20年（槽本体のみ）である。ただし、槽内の修繕を行うことで35年間の運用も可能である。社会の動向、人口の推移や技術の進展等に適した改築やシステムへの見直し等にも柔軟に対応可能である。	<p>公的認知</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日本下水道事業団 新技術Ⅱ類選定技術[平成28年9月改訂] ●「鋼板製消化タンク技術マニュアル」平成25年3月 ●「神戸市東灘処理場 再生可能エネルギー生産・革新的技術実証事業」平成25年7月 <p>本技術の特長</p>	
対応地域 Service Area	<input type="radio"/> 国内のみ (Only in Japan) <input checked="" type="radio"/> 海外対応可 (Overseas)		
情報更新年月日 (西暦) Date of Updating	2017/9/26		
連絡担当者 Person in charge of this information	岡山 尚弘		
電話/e-mail Phone/e-mail	06-6206-6745/n.okayama@kobelco-eco.co.jp		
関連情報サイト Related Information Site	http://www.kobelco-eco.co.jp/development/docs/020_06.pdf http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryoutnn/tnn0737.htm		
事業者情報欄 (Profile of Provider)			
事業者 Provider	株式会社神鋼環境ソリューション		
ふりがな (全角ひらがな)	かぶしきがいしゃしんこうかんきょうそりゅーしょん		
郵便番号 (XXX-XXXX) Zip Code	651-0072		
所在地 Address	兵庫県神戸市中央区脇浜町1丁目4番78号		
電話 Telephone	078-241-7512		
FAX (Facsimile)	078-241-7637		
URL	http://www.kobelco-eco.co.jp/index.html		

1. 消化タンクの運転支援

1) 消化タンク内部の運転状況を見える化することで、消化性能の低下を未然に防ぎ安定運転ができる。
2) 消化設備を導入しようとする運転経験のない維持管

2. 建設工期の短縮

卵形消化タンク 鋼板製消化タンク

1) 地上設置、タンク重量低減により、土木(基礎)工事期間短縮
2) 土木・機械工事の一括発注
3) 基礎工事と消化タンク本体を工場製作と並行して施工

➡ 5,800m³実績: 建設工期11ヶ月
同規模卵形消化タンクと比較して約45%短縮(当)

3. 攪拌動力の低減

1) 大型特殊形状のインペラにより下降流を形成
2) 低速回転のため低動力例) 電動機容量7.5kW (6,000m³)

槽容積当たりの攪拌所要動力(消費電力)、1W/m³程度
消化性能を維持できる攪拌機回転数での動力投入密度は、従来技術(45kW)と比べて1/6まで低減できる。

4. 建設費の低減

建設費比較 (消化タンク本体、土木基礎含む)

消化タンク容量 (m ³)	建設費比較 (%)
1,000	0.46
2,000	0.52
4,000	0.54
6,000	0.53

出典: 鋼板製消化タンク技術マニュアル(2013年3月)
財団法人下水道新技術推進機構(旧称)

建設工期が短縮できるため、コンクリート製と比較して建設費を46~54%まで低減できる。